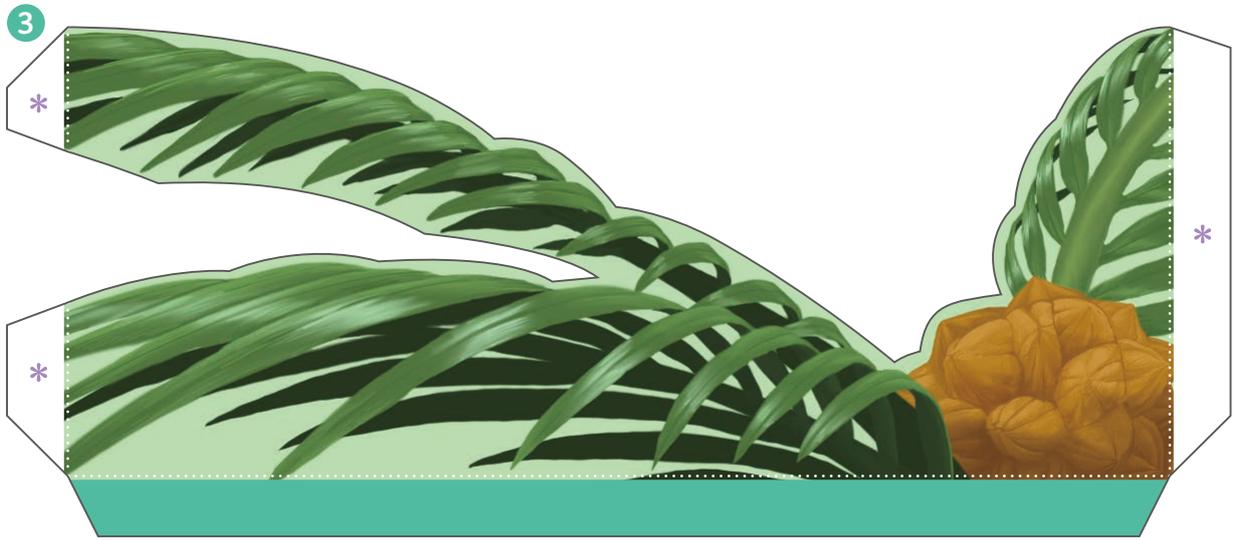


1

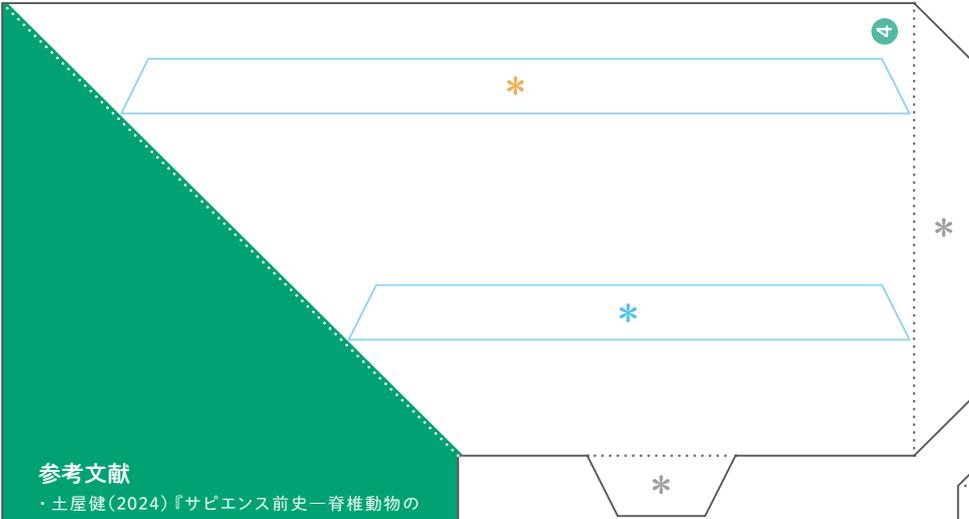


2





4



参考文献

- ・土屋健(2024)『サビエンス前史—脊椎動物の進化から人類に至る5億年の物語』講談社(ブルーバックス B2255), pp.141-153.
- ・高橋正道(2006)『被子植物の起源と初期進化』北海道大学出版会, pp.224
- ・Sigé, B., Jaeger, J.-J., Sudre, J., & Vianey-Liaud, M. (1990) *Altiatlasius koulchii* n. gen. et sp., primate omomyid du Paléocène supérieur du Maroc, et les origines des Euprimates. *Palaeontographica*, Abt. A, 214(1-2) : 31-56.
- ・Herbig, H. G., & Gregor, H. J. (1990) The mangrove-forming palm *Nypa* from the early Paleogene of southern Morocco: Paleoenvironment and paleoclimate. *Géologie Méditerranéenne*, 17(2) : 123-137.

5



当時の環境

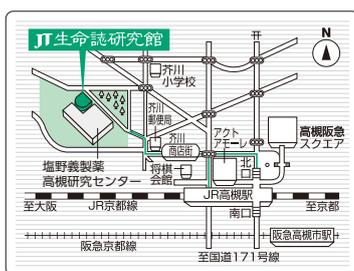
当時のモロッコは、熱帯雨林から砂漠地帯へと移り変わりつつあり、現在よりも緑が多く、やや乾燥した環境でした。恐竜の生息していた白亜紀に花を咲かせる植物である被子植物が出現し、勢力を広げました。新生代に入ると、環境の大きな変化の中でさらに多様化し、最も繁栄している植物群となりました。アルテア、アトラジウスが生きていた森にも、ヤシやネムノキ科、フトモモ科、クスノキ科などの樹木が生い茂り、それらの実を食べていたのかもしれない。



アルティアトラシウス

Altiatlasius

私たちヒトは霊長類の生きものです。ヒトの進化を遡ると、約700万年前にはゴリラやチンパンジーと共通の祖先にたどり着きます。では、霊長類の歴史はどれくらい古くから始まったのでしょうか。現在は砂漠となっているモロッコのワルザザート盆地。約5600万年前、そこは緑豊かな森でした。この森で、最古級の霊長類とされるアルティアトラシウスが暮らしていました。見つかった化石は10本ほどの歯のみですが、その形から霊長類であること、果実や昆虫を食べる雑食性だったことが推測されています。歯は分類や食べていたものを知る重要な手がかりです。生きていた頃の姿を完全に想像するのは難しいですが、近い時代に生きていた他のサルから推測していくことで、その姿が見えてきます。



JT生命誌研究館

〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1
Tel: 072-681-9750(代表) Fax: 072-681-9743
<https://www.brh.co.jp>

開館時間 10:00-16:30 入館無料
休館日 毎週月曜日/年末年始(12月29日~翌年の1月4日)
最新の開館情報はWEBサイトでご確認ください。

交通 JR京都線高槻駅より徒歩10分/阪急京都線高槻駅より徒歩18分
JRのご利用が便利です。

